

2005年8月3日

参 考 資 料本資料は8月3日にチュ
リッヒで発表されたプレ
リリースの翻訳版です**クレディ・スイス・グループ
2005年第2四半期業績を発表
9億1,900万スイス・フランの純利益****業績には法人向け証券部門の訴訟関連引当金
6億2,400万スイス・フラン（税引後）の計上を含む****プライベート・バンキング
純利益5億8,100万スイス・フラン、純新規資産128億スイス・フラン****コーポレート&リテール・バンキング
過去最高純利益2億7,700万スイス・フラン、平均配分資本比率21.4%****法人向け証券
訴訟関連引当金計上、4-5月の市場活動鈍化、投資銀行業務増収などで
純損失4億800万スイス・フラン****ウェルス&アセット・マネジメント
純利益2億4,500万スイス・フラン、オルタナティブ・キャピタル部門好業績****ウィンタートウル
引き続き業績回復、ライフ&ペンション部門純利益1億1,600万スイス・フラン、
損害保険部門純利益1億3,700万スイス・フラン****BIS第1分類資本比率10.9%****財務ハイライト**

単位：百万スイス・フラン	2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2004年 第2四半期	2005年第1 四半期からの 増減率(%)	2004年第2 四半期からの 増減率(%)
純営業収益	14,101	17,062	13,733	(17)	3
総営業費用	7,178	6,146	6,254	17	15
純利益	919	1,910	1,457	(52)	(37)
グループ自己資本利益率	9.8%	20.6%	16.6%	-	-
1株当たり利益（スイス・フラン）	0.82	1.64	1.26	-	-
BIS第1分類資本比率	10.9%	12.1%	-	-	-

クレディ・スイス・グループは、本日、2005年第2四半期の業績を発表しました。それによると、2005年第2四半期は、9億1,900万スイス・フラン（以下CHF）の純利益を計上しました（2005年第1四半期は19億1,000万CHFの純利益、前年同期は14億5,700万CHFの純利益）。2005年第2四半期の業績には、法人向け証券部門の訴訟関連引当金6億2,400万CHFの税引き後費用が含まれています。

当四半期のクレディ・スイス・グループの自己資本利益率は9.8%、各部門の自己資本利益率は、バンキング部門が9.1%、ウィンタートウルが11.3%でした。1株当たり利益は0.82CHFでした。

クレディ・スイス・グループの2005年上半期の純利益は28億2,900万CHF（前年同期は33億1,800万CHFの純利益）でした。

クレディ・スイス・グループ最高経営責任者のオズワルド・グリューベルは次のように述べています。「2005年の初頭は順調でしたが、懸念していた市場活動の鈍化が現実のものとなり、バンキング事業におけるクライアント活動は4-5月に低水準となり、第2四半期の業績に影響を及ぼしました。しかし6月以降市場環境が大幅に好転したため、好調な純営業収益と効果的なコスト管理により、例年並みの第2四半期業績を確保しました」。

「2005年上半期業績は、クレディ・スイス・グループの事業成長に大きな進展があったことを示していますが、グループのもつ潜在能力をフルに引き出すには、まだすべきことがあります。このため、バンキング部門を統合された単一の組織にする取り組みの一環として、業績の更なる改善に引き続き努めていきます。このことにより、魅力的な新規ビジネス機会を創出し、増収および経営効率化を実現できるものと確信しています」。（グリューベル）

バンキング部門

クレディ・スイス・グループ バンキング部門業績

単位：百万 CHF		2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2004年 第2四半期	2005年第1 四半期から の増減率 (%)	2004年第2 四半期から の増減率 (%)
プライベート・ バンキング	純営業収益	1,810	1,912	1,869	(5)	(3)
	総営業費用	1,084	1,060	1,083	2	0
	純利益	581	685	665	(15)	(13)
コーポレート& リテール・バンキ ング	純営業収益	858	860	950	0	(10)
	総営業費用	548	529	553	4	(1)
	純利益	277	274	256	1	8
法人向け証券	純営業収益	3,335	3,842	3,134	(13)	6
	総営業費用	3,891	3,006	2,858	29	36
	純利益	(408)	540	129	-	-
ウェルス&アセッ ト・マネジメン ト	純営業収益	1,570	936	1,499	68	5
	総営業費用	623	598	636	4	(2)
	純利益	245	135	301	81	(19)

プライベート・バンキング部門の2005年第2四半期の純利益は、安定した貸付、預金、手数料収入により5億8,100万CHFを計上しました。当四半期の収益は非常に好調であった2005年第1四半期に比べ15%減少しましたが、これは主にトレーディング・エグゼキューション収益が減少し、結果としてトレーディング全体の収入が落ち込んだことによります。当四半期の純利益は前年同期比13%減となりましたが、これは主に当四半期中、ヘッジ会計とは認められないがリスク管理目的で利用した金利デリバティブの時価で小幅な評価損が発生したことによります。これに対して

前年同期は、同様のデリバティブで大幅な評価差益を得ていました。2005年第2四半期の粗利益率は125.6ベース・ポイント、2005年上半期の粗利益率は131.5ベース・ポイントとなり、同部門の中期目標である130ベース・ポイントを上回りました。2005年第2四半期の費用・収益比率は59.9%で、2005年第1四半期比4.5パーセンテージ・ポイント増、前年同期比2.0パーセンテージ・ポイント増でした。これは2005年第1四半期に比べ、季節的特徴として費用が増加したこと、主要成長市場で戦略的投資をおこなったこと、ならびに純営業利益が減少したことによります。

ユーポレート&リテール・バンキング部門の2005年第2四半期の純利益は2億7,700万CHFで、同年第1四半期比若干増、前年同期比8%増となりました。大幅な収入増と信用損失関連引当金の正味解除が今回の増益の主たる要因です。2005年第2四半期の費用・収益比率は63.9%で、同年第1四半期比2.4パーセンテージ・ポイント増でしたが、季節的特徴として第1四半期は費用が低くなります。2004年第2四半期の費用・収益比率を5.7パーセンテージ・ポイント上回りましたが、同期はヘッジ会計とは認められないがリスク管理目的で利用した金利デリバティブの時価におけるプラスの変化から利益を得ました。2005年第2四半期の平均配分資本比率は21.4%という高い値を達成しました。

法人向け証券部門は、エンロン、特定のIPO（新規株式公開）株式割当実施、調査アナリストの独立性に関わる民事訴訟およびその他関連訴訟に関連した引当金を積み増す目的で、税引前ベースで9億6,000万CHF、税引後ベースで6億2,400万CHFの費用を第2四半期に計上しました。この費用は元来2002年に設定した訴訟関連引当金の税引前費用7億200万CHF（4億5,000万米ドル）に追加計上したもので、これにより訴訟関連引当金の合計額は設定時からこれまでに成立した和解に係る引当金を控除した後で14億CHF（11億米ドル）となりました。今回の措置により、クレディ・スイス・グループの訴訟関連引当金は、相当かつ合理的な見積りが可能な訴訟リスクの当社の現時点での査定を十分反映していると確信しています。

法人向け証券部門の2005年第2四半期の最終損益は、上記訴訟関連引当金の費用計上を含め4億800万CHFの純損失を記録しましたが、同費用を除くと同部門の最終損益は2億1,600万CHFの純利益となり、前年同期比67%増となります。これは増収ならびに社員の報酬および手当での減少によります。ただし、この金額も2005年第1四半期の5億4,000万CHFを下回りましたが、これは訴訟費用の計上によるその他費用の増加および4-5月期の市場活動の鈍化による純営業収益の減少が要因です。トレーディング収入は、特に債券において2004年第2四半期を上回ったものの、2005年第1四半期を下回りました。2005年第2四半期の投資銀行業務の純営業収益は、同年第1四半期を大幅に上回りました。アドバイザー手数料が同年第1四半期および前年同期の実績を上回り、債券と株式の引受業務も同年第1四半期の実績を上回ったためです。2005年第2四半期の総営業費用は、同年第1四半期と前年同期の双方を上回りましたが、これは訴訟費用の計上によるものです。当期の社員報酬および手当では同年第1四半期と前年同期の双方を若干下回りました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の2005年第2四半期の純利益は2億4,500万CHFで、同年第1四半期比81%増、前年同期比19%減でした。ただし前年同期の業績には、オルタナティブ・キャピタル部門の投資関連利益が多く含まれています。2005年第2四半期の純営業収益は、プライベート・エクイティの現金化による投資利益から収益がもたらされました。当期の総営業費用は、2005年第1四半期を4%上回りましたが、前年同期を若干下回りました。

保険部門

クレディ・スイス・グループ 保険部門業績

単位：百万 CHF		2005年 第2四半期	2005年 第1四半期	2004年 第2四半期	2005年第1 四半期から の増減率 (%)	2004年第2 四半期から の増減率 (%)
ライフ&ペンション	純営業収益	3,714	6,610	3,466	(44)	7
	総営業費用	428	427	481	0	(11)
	純利益	116	126	67	(8)	73
損害保険	純営業収益	2,979	3,049	2,977	(2)	0
	総営業費用	713	698	783	2	(9)
	純利益	137	125	82	10	67

ライフ&ペンション部門の2005年第2四半期の純利益は、前年同期を大きく73%上回り1億1,600万CHFとなりました。同年上半期の純利益は2億4,200万CHFで、前年同期を3,600万CHF、17%上回りました。この業績は主に生産性向上への取り組みと成長分野への集中によるものですが、従来型生保契約の運用によって生じた純投資収益の若干増も要因として挙げられます。2005年第2四半期の総取引高は前年同期比2%増、2005年上半期の総取引高は前年同期比5%増でした。この増加には投資型保険商品の購入者からの預入金および従来の保険契約の契約者から払い込まれた総保険料が含まれています。2005年第2四半期の従来の保険契約を支えている正味投資利益率は4.7%でした（前年同期は4.6%）。保険引受および取得費用は前年同期比5%減、事務管理費用は前年同期比8%減となりましたが、これは費用管理対策の継続的な実施により一層の効果が発揮されたことによります。この結果、費用比率は1.0パーセント・ポイント減の10.9%に改善されました。

損害保険部門の2005年第2四半期の純利益は1億3,700万CHFで、前年同期比67%増となりました。2005年上半期の純利益は2億6,200万CHFで、前年同期比7,700万CHF増、42%増となりました。今回の増益は、厳しい引受環境、外国為替相場のマイナス影響、純投資収益の減少という逆風にもかかわらず達成されました。当期の正味保険料収入は前年同期を若干下回る26億4,300万CHFとなりました。当期の純投資利益は4.2%、前年同期は4.5%でした。純直接投資利益は前年同期の3.6%から3.7%に若干上昇し、正味実現益は前年同期を0.4パーセント・ポイント下回る0.5%に減少しました。当期の合算比率は前年同期比2.6パーセント・ポイント下がり95.1%に、2005年上半期の合算比率は1.8パーセント・ポイント下がり97.3%になりました。保険クレーム比率は前年同期比0.9パーセント・ポイント改善して70.4%となりましたが、これは大型損失が低水準に抑えられていること、およびクレーム管理の改善によります。費用比率も前年同期比1.7パーセント・ポイント減の24.7%となりました。事務管理費用は前年同期比15%減の2億7,300万CHFとなりました。保険引受および取得費用は引き続き比較的安定しており、正味保険料収入に呼応して1%減の3億7,900万CHFとなりました。

新規純資産

新規純資産および運用資産

(単位：10億 CHF)	新規純資産 2005年 第2四半期	運用資産合計 2005年 6月30日現在	2005年3月31 日現在からの 運用資産増減率 (%)
プライベート・バンキング	12.8	602.3	6.7
コーポレート&リテール・バンキング	0.4	54.9	0.7
法人向け証券	(1.5)	14.2	(11.8)

ウェルス&アセット・マネジメント ¹⁾	4.2	519.9	5.7
ライフ&ペンション	0.3	122.5	2.5
損害保険	該当なし	27.4	8.7
クレディ・スイス・グループ	16.2	1,341.2	5.5

¹⁾ 当グループに属する会社のために運用する資産を除く。

プライベート・バンキング部門の2005年第2四半期の新規純資産流入分は128億CHFとなりました。同部門の2005年上半期の新規純資産流入伸び率は7.3%で、特に戦略的主要市場から多くの資産流入がありました。ウェルス&アセット・マネジメント部門の2005年第2四半期の新規純資産流入分は42億CHFで、これは主にオルタナティブ・キャピタル部門の新規ファンドが牽引力となったためです。これにより、グループ全体の当期新規純資産は162億CHFとなりました。グループの運用資産総額は2005年6月30日現在1兆3,412億CHFで、2005年3月31日現在の実績を5.5%上回りました。

2005年の見通し

クレディ・スイス・グループは、6月に始まったバンキング事業におけるクライアント活動の回復基調が今後も続くと思込んでいます。株式市場は最近の上昇傾向に短期的な調整があるものの、2005年下半年には改善し、また金利変動は小幅な範囲で推移する可能性が高いと思われます。クレディ・スイス・グループは、このような環境から恩恵を受けることができる立場にあります。

本件に関する問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ
梶野 勇
電話 03-4550-9893

クレディ・スイス・グループについて

クレディ・スイス・グループは、チューリッヒに本社を置く、世界有数のファイナンシャル・グループです。クレディ・スイス・グループは、個人および法人顧客にプライベート・バンキング、ファイナンシャル・アドバイザー、ウインタートウルの年金および保険ソリューションを提供し、投資銀行の分野では、世界的な法人、機関、政府、個人などの顧客に金融媒介サービスを提供しています。クレディ・スイス・グループの株式(CSGN)はスイスで上場され、米国預託証券(CSR)としてニューヨークでも上場しています。クレディ・スイス・グループは全世界に約60,000人の従業員を有し、2005年6月30日現在、1兆3,412億スイス・フランの報告済み運用資産を保有しています。

予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。

「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分け

る決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。

予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および(xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。

上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。

###